

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）
共同プロジェクト研究
2021年度研究【〇経過・成果】報告書

研究代表者	所属部局・職名		氏名					
	経営学部・教授		秋野晶二					
研究課題	GVCにおけるガバナンスの理論と実態に関する研究							
研究組織 (研究代表者・ 研究分担者) 2022年3月現在	所属研究機関・部局・職名		氏名					
	立教大学経営学部教授		秋野 晶二					
	立教大学ビジネスデザイン 研究科教授		山中 伸彦					
	立教大学経済学部准教授		菊池 航					
	立教大学ビジネスデザ イン研究科教授		安田 直樹					
	北星学園大学経済学部准教 授		黄 雅雯					
研究期間	2021年度 ～ 2023年度							
研究経費※ (上段:支出金額)	2021年度		2022年度		2023年度		総計	
	717,630	円	0,000,000	円	0,000,000	円	717,630	円
(下段:採択金額)	725,000	円	2,057,000	円	3,214,000	円	5,996,000	円

※1円単位で記入

研究の概要 (200~300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は「グローバル・バリューチェーン (Global Value Chain : GVC)」のガバナンスの実態解明を通じ、その理論の拡張と発展を試みる。GVC研究の中でもそのガバナンス研究は、GVC論の中核的論点を成すにもかかわらずその研究蓄積は、理論面実証面いずれにおいても十分とはいえない。本研究では、GVCのガバナンスに関する既存理論の系譜と展開の批判的検討のうえで、下請・系列、流通チャンネル、サプライチェーンマネジメント、組織間関係論といった経営学のアプローチを援用し、リード企業によるGVC構成企業の調整様式、リード企業の調整能力、リード企業とGVC構成企業との間のパワーの非対称性の程度とガバナンスの関係を検討し、GVCのガバナンス・メカニズムを明らかにする。その際、本研究では、主に電子機器産業を対象にガバナンスの実態を定量的・定性的な実証分析を実施し、既存ガバナンス理論を拡張・発展させ、グローバルに展開する企業間関係を通じて統合的な生産システムを実現しうる現代企業の調整能力の形成と発展という観点から今日のGVCによる生産体制を歴史的に位置付ける。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[GVC] [調整能力] [ガバナンス・メカニズム]

研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

今年度の研究は、ほぼ当初の研究計画に沿って遂行することができた。まずは研究会、インタビュー調査、情報収集とデータベース構築、質問紙調査、研究成果のまとめと次年度の研究予定の各項目についてまとめる。

■研究会

研究成果をメンバー全員で共有するとともに、プロジェクト達成のために適宜議論を行った。初年度については 6 回の研究会を開催した。

① 7 月 3 日 (土) 本研究プロジェクトの研究の構想および本研究の理論的枠組みの確認、今年度の詳細計画・分担の決定を行った。また学会報告の準備と英文論文投稿について今後の予定を話し合った。

② 8 月 2 日 (月) 秋野による報告の後、既存研究や本研究プロジェクトにおける課題について議論した。また、山中、菊池、黄より、本プロジェクトにおける各自の研究課題が報告された。加えて、英語論文投稿後の進捗状況の確認と、日本経営学会全国大会での報告に向けた意識合わせを行った。研究報告：秋野「現代グローバル生産体制における企業間調整理論に関する理論的検討－GVC ガバナンス論の批判的検討を通じて－」

③ 10 月 20 日 (水) 黄による研究報告の後、各自の見解をもとに議論を行った。また、本研究プロジェクトにおける予算配分に関する確認と、次回の科研費申請に向けた研究計画の共有、今後の研究会における各自の研究報告についての意識合わせを行った。研究報告：黄「Kano(2018)グローバル・バリューチェーン・ガバナンス：関係性の視点から」

④ 11 月 20 日 (土) 安田による研究報告の後、各自の見解をもとに議論を行った。また、本研究プロジェクトにおけるインタビュー調査について、その進捗状況の共有と、今後の進め方や調査時期についての確認を実施した。研究報告：安田「McWilliam, S. E., et al., (2020) Global value chain governance: Intersections with international business」

⑤ 2 月 15 日 (火) 山中による研究報告の後、本研究プロジェクトにおける定量的調査に向けた尺度の作成について議論した。また、余より、Apple 社のサプライヤーに関する情報収集とデータベース構築について、進捗状況が共有された。加えて、本研究プロジェクトにおける予算執行に関する確認と、インタビュー調査実施日の調整を行った。研究報告：「GVC ガバナンス実態に関する定量的調査に向けて」

⑥ 3 月 23 日 (水) 今年度最後の研究会ということで、1 年間の研究成果の確認と今後の予定について話し合い、確認を行った。また次年度の調査についての検討課題について話し合った。最後に次年度以降は、令和 4 年度～令和 6 年度の基盤研究 (B) が採択されたため、改めてこれから 3 年間の計画を提示したうえで、各自の研究計画 (研究課題) を確認し、話し合った。

■インタビュー調査

今年度は、オンラインで以下の 4 件のインタビュー調査を実施した。

① 7 月 31 日 (土) 12:00～14:00 (オンライン) 半導体業界関連機関・A 社：半導体業界の現況や半導体特有の取引慣行や企業間のパワーバランスなどについて、前職半導体商社 a 社での経験も含めてインタビューを実施した。半導体ビジネスを主導する企業が中心的な利用分野の変遷とともに変化している事実や半導体メーカーの今後の戦略の傾向、半導体のサプライチェーンの慣行や商社の役割などについて知見を得た。

② 10 月 20 日 (水) 14:00～16:00 (オンライン) 元日系 EMS 子会社 B 社社長：本インタビューでは、半導体業界、特にスマートフォン業界の現状、サプライヤーやブランドメーカーとの取引の実態、サプライチェーンに対する管理の実態等について聞き取りを行った。インタビューから、スマートフォンの部品取引の概要、EMS によるサプライヤーの生産プロセスやサプライチェーンの管理がいかに行われているのか、ま

研究【経過・成果】の概要 (つづき)

た取引における価格交渉や変動に対する対処の実態についての知見を得た。

③ 2月26日(土) 14:00~16:00 (オンライン) 日系 EMS・C 社営業担当: インタビューは、EMS である C 社において、自動車関連部品の EMS 事業の営業を担当し、工場と顧客との間の調整を行っている。C 社は自動車のサプライチェーンにおいて、Tier2 に位置し、Tier1 の電気部品メーカーに電子部品等を実装組み立てた基板を供給している。このような事業の契約、設計の分担、価格決定、受発注情報のやり取り、開発から量産に至るプロセスなどについて、クライアントやアッセンブラー、Tier3 などとの関係聞き取りを行った。とりわけ自動車業界と電子機器業界との共通点と相違点が明らかとなった。

④ 3月4日(金) 16:00~18:00 (オンライン) 台湾系 EMS・D 社調達担当: 本インタビューでは、コロナ禍におけるエレクトロニクス産業の現状、サプライヤーやブランドメーカーとの取引の実態、サプライヤーに対する管理の実態などについて聞き取り調査を行った。インタビューから、顧客、そしてサプライヤーの交渉力がいかなる要因によって違うか、顧客とサプライヤーの交渉力の違いに伴う取引の実態、および価格交渉や変動に対する対処の実態について知見を得た。

■ 情報収集とデータベース構築

2019 年および 20 年の Apple 社の Suppliers List をそれ以前のデータと合わせて整理した。また udn.com 新聞・雑誌記事のデータベースに基づいて、中国を中心に Apple 社のサプライヤーを企業別にその動向を整理している。

■ 質問紙調査

今年度は、質問紙の設計のための予備作業として、定量的分析を用いた実証的な先行研究を精査し、そこで用いられている測定尺度の検討を行った。GVC ガバナンス研究においては、インタビュー調査や事例研究を用いた定性的な実証分析の蓄積は相当にみられるものの、質問紙調査によるデータ等を用いた定量的な実証分析はさほど多くない。そのため近接研究領域であるサプライチェーンマネジメント研究の先行研究の探索も行い、本研究における測定尺度の開発にとって参考としうる測定尺度の検討を行った。

■ 研究成果のまとめと次年度の研究予定

これまでの継続的な研究成果として、秋野・山中・黄・菊池の4名が International Journal of Business and Management 誌に Global Value Chain Governance and Power Asymmetry between Lead Firms and Suppliers: Case of Apple's Global Value Chain and the State of Its Governance, International Journal of Business and Management を掲載し、また日本経営学会第 95 回全国大会 (2021 年 9 月 4 日) において「グローバル・バリューチェーン・ガバナンスの理論と実態に関する研究—アップル社の事例を中心に—」を報告した。また各研究代表者・分担者の研究発表は次頁の通りである。また研究会での各自の報告については、以下の通りである。次年度については、研究成果および次年度の課題としては以下の通りである。次年度は、基盤研究 (B) 「GVC における企業間ネットワークのガバナンスと調整に関する理論的実証的研究」の採択に伴い、本 SFR での研究の 2 年度目の計画に基づき、これ引き続きながら、より発展させた研究を深めていく予定である。

秋野「現代グローバル生産体制における企業間調整理論に関する理論的検討」

黄「Kano(2018)グローバル・バリューチェーン・ガバナンス: 関係性の視点から」

安田「McWilliam, S. E., et al., (2020) Global value chain governance: Intersections with international」

山中「GVC ガバナンス実態の定量的調査に向けて」

※この(様式 2)に記入の【経過・成果】の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差控え期間等を記入した調書 (A4 縦型横書き 1 枚・自由様式) を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

- (1) Shoji Akino, Nobuhiko Yamanaka, Yawen Huang, Wataru Kikuchi, Global Value Chain Governance and Power Asymmetry between Lead Firms and Suppliers: Case of Apple's Global Value Chain and the State of Its Governance, *International Journal of Business and Management*, 16(9), 58-70 (2021年8月3日)
- (2) 秋野晶二「アップル・コンピュータ社の成長と近代企業(中)」『立教ビジネスレビュー』(14), 43-66 (2021年7月)
- (3) 山中伸彦「現代企業の組織デザインと経営者の役割-組織デザインの補完性、信頼とイノベーションの関係に関する分析-」『日本経営学会誌』(49), 6-16. (印刷中)

② 図書

- (1) 山中伸彦「イノベーション研究と経営合理性」、経営学史学会監修、風間信隆編著、『経営学史叢書第Ⅱ期④合理性 合理性から読み解く経営学』、文真堂、157-168. (2021年12月)
- (2) 菊池 航「耐久消費財産業の成長—自動車を中心に—」岸田 真・島西智輝・平井健介編『ハンドブック日本経済史：徳川期から安定成長期まで』ミネルヴァ書房、2021年、274-277頁
- (3) 菊池 航「知識移転による集積の発展—TMEJの事例—」佐伯靖雄編『東北地方の自動車産業—震災から十年、経済復興の要として—』晃洋書房、2021年、59-76頁
- (4) 菊池 航「中核企業の生産拠点発展史」佐伯靖雄編『東北地方の自動車産業—震災から十年、経済復興の要として—』晃洋書房、2021年、37-58頁

④ その他

▼学会報告

- (1) 秋野晶二「現代グローバル生産体制における企業間調整理論に関する理論的検討—GVCガバナンス論の批判的検討を通じて—」工業経営研究学会第36回全国大会(2021年9月8日)
- (2) 秋野晶二, 山中伸彦, 菊池航, 黄雅雯「グローバル・バリューチェーン・ガバナンスの理論と実態に関する研究—アップル社の事例を中心に—」日本経営学会第95回全国大会(2021年9月4日)
- (3) 山中伸彦「現代企業の組織デザインと経営者の役割:組織デザインの補完性、信頼とイノベーションの関係に関する分析」日本経営学会第95回全国大会(2021年9月2日)
- (4) 安田直樹「企業行動理論 (behavioral theory of the firm) と企業の長期的存続」日本マネジメント学会第84回全国大会全国大会統一論題報告(2021年10月3日)
- (5) 菊池 航「中核企業の知識移転による産業集積の発展:トヨタ自動車東日本の事例」産業学会自動車産業研究部会(中部)第1回研究会(2021年11月28日)
- (6) 菊池 航「トヨタのサプライチェーンの頑健性—部品調達構造の系列分析を中心に—」工業経営研究学会第36回全国大会(2021年9月9日)

▼予稿集

- (1) 山中伸彦「現代企業の組織デザインと経営者の役割:組織デザインの補完性、信頼とイノベーションの関係に関する分析」日本経営学会第95回全国大会報告要旨集
- (2) 菊池 航「トヨタのサプライチェーンの頑健性—部品調達構造の系列分析を中心に—」『工業経営研究学会第36回全国大会 予稿集』、2021年、1-8頁